

ラムキン

- 1 ラムキンは 腕のたつ石屋
その名も聞こえた石屋でした
ウイリー卿の城を建てたのに
お金を払ってもらえません
- 2 「ウイリー様 お支払いを
どうか お支払いをお願いします」
「ラムキンよ 払いは無理だ
海のむこうに行かねばならぬ」
- 3 「ウイリー様 お支払いを
今すぐにお支払いをお願いします」
「ラムキンよ 払いは無理だ
領地でも売らないかぎり それは無理」
- 4 「支払っていただけなければ
ここではつきり言つておきます
お戻りになる前に
後悔なさることが起ころうでしょう」
- 5 ウィリー卿は りつぱな船を仕立てて
海のむこうに船出しました
「わたしが戻つてくるまでは
城の守りをよろしく頼む」
- 6 乳母は悪い女
今までに首を吊られた誰よりも悪者で
お城のあるじ主が 出かけてゆくと
さつそくラムキンとたくらみました
- 7 ラムキンとたくらんで
召使たちの留守をみて
ラムキンを 小さな出窓に呼び寄せて
それから 広間に導きました
- 8 「おれをラムキンと知つていて
城の男たちはどこにいる」
「男たちは 納屋で麦打ち
とうぶん 戻りはしませんよ」
「おれをラムキンと知つていて
城の女たちはどこにいる」

「女たちは 遠くの井戸で洗いもの
とうぶん 戻りはしませんよ」

「おれをラムキンと知つてゐる

城の子供たちはどこにいる」

「子供たちは 学校でお勉強
日が暮れるまで 戻りませんよ」

10 「おれをラムキンと知つてゐる

城の奥様はどうぞにいる」

「奥様は 二階のお部屋で針仕事
でも まもなく階下にお呼びしましょう」

11 「おれをラムキンと知つてゐる

城の奥様はどうぞにいる」

「奥様は 二階のお部屋で針仕事
でも まもなく階下にお呼びしましょう」

12 ラムキンは 腰にさげていた

銳いナイフを取り出して

かわいい赤ん坊に

深傷を負わせたのでした

13 ラムキンが揺り籠を揺らし

悪い乳母が 子守歌をうたうたび

籠の網目から

赤い血が吹き出しました

14 部屋から出てきた奥様が

踊り場で叫びました

「乳母よ 赤ん坊が泣いています

どうして あんなに大きな声で

「乳母よ なだめておやり
お乳をやつて なだめておやり」
「奥様 あれやこれやとなだめても
赤ん坊は 泣き止みません」

15 「乳母よ なだめておやり

お乳をやつて なだめておやり」

「奥様 あれやこれやとなだめても

赤ん坊は 泣き止みません」

16 「乳母よ 鎮めておやり

ムチでたたいて 鎮めておやり」

「奥様 ご主人さまの領地にかけても

赤ん坊は 泣き止みません」

17 「乳母よ あやしておやり

鈴を鳴らして あやしておやり」

「奥様が階下に降りてこられるまでは
赤ん坊は 泣き止みません」

18 奥様が 最初の一歩を踏み出して
石段の上に降り立ちました

奥様が 次の一歩を降りたとき
ラムキンが 目の前にいたのです

19 「ラムキン お願ひ

どうか 命は助けてください
息子の命は奪われましたが
わたしの命は 助けてください」

20 「乳母よ 奥様の命を頂戴しようか
それとも 命は助けてやろうか」

「ラムキン 殺しておしまい
奥様は 今までわたしに冷たい仕打ち」

21 「乳母よ タらいを洗つて
奥様の心臓の血を受けるのだ

きれいなたらいを用意するのだ
奥様は 尊いお方なのだから」

22 「ラムキンよ タらいなんか要るものか
血は床ゆかに流しておしまい

金持ちと貧乏人とで
心臓の血に なんの違いがあるものか」

23 「三ヶ月が過ぎたころ

ウイリー卿が戻つてきました
しかし お城に戻つたとたんに

目の前が真つ暗になりました

24 「部屋にいっぱい流れている

この血は いつたい誰のもの」

「それは 奥様の心臓の血
琥珀こはくのようにきれいな血」

25 「広間にいっぱい流れている

この血は いつたい誰のもの」

「それは 赤ん坊の心臓の血
この世でもっともきれいな血」

26 小枝にとまつて

クロツグミが きれいに鳴きました
死刑を宣告されて

ラムキンが 悲しく泣きました

サンザシの茂みから

ウタツグミが きれいに鳴きました

火あぶりの柱に縛られて

乳母が 悲しく泣きました

(山中光義訳)